

Press Release

一般財団法人日本ボクシングコミッション（以下「JBC」という。）は、本年8月2日に後樂園ホールで開催された興行において、浦川大将選手（帝拳ジム）及び神足茂利選手（M.T ボクシングジム、以下浦川選手と神足選手を併せて「本件各選手」という。）の2選手が死亡した事故（以下併せて「本件各事故」という。）について、本年9月20日、事故検証委員会から中間報告を受けましたので、下記の通りご報告いたします。

記

1. 事故検証委員会について

(1) 名称

事故検証委員会（以下「本件委員会」という。）

(2) 委員（計6名）

委員長：弁護士 岡筋 泰之

委員：法律、医学、メディア、試合運営等の専門家

(3) 趣旨

本件各事故の事実関係と原因を究明し、同種事故の再発防止策を検討することを目的とする。

2. 中間報告の内容

プライバシー保護の観点から中間報告書の公開は差し控えるが、以下に概略をまとめる。

なお、同報告は、本件各選手の死亡について因果関係を特定するものではない。また、本件委員会の調査・検討は現在進行中であり、今後本件各選手の所属ジム及び遺族への聞き取りを行ったのち、それらを踏まえて最終報告を行う予定である。

(1) 前回の死亡事故後の再発防止策が不徹底であったこと

2023年12月26日に開催された日本バンタム級タイトルマッチ後に死亡した穴口一輝選手の事故に係る事故検証委員会報告書において、種々の再発防止策が提言された。JBCは合同医事研修会の実施や一部のルール変更（事前計量制度、タオル投入）を実施したものの、上記報告書の発出から1年以上が経過してもなお、選手の安全確保のための抜本的なルール変更や医療体制の見直しといった施策について実質的な検討は開始されていない状況である。選手の死亡事故という重大な結果

Tokyo Dome 61-3, 1-Chome, Koraku, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan
Tel ; +81-3-3816-5761, Fax ; +81-3-3816-5760
E-mail; yasukochi.tsuyoshi1961@gmail.com

を踏まえた再発防止策の施行状況としては不十分であり、安全管理のための組織改革がいまだ進められていないとの評価を免れ得ない。

(2) 従前の再発防止策徹底に加え、更なる改善の余地があること

以下、新たな提言について要点を述べる。

ア 健康管理委員会の再編

JBC は定款上の委員会として「健康管理委員会」を設置しているが、設置の趣旨が必ずしも十分機能しているとは思われない。選手の生命と健康を最優先に保護する体制を恒久的に確立するため、外部の専門家を主体とする「健康管理委員会」を再編することが重要だと考える。

イ 後方支援病院の拡充並びに安全対策強化について

事故に備えるための医療体制整備として、各地域の医療機関との連携を強めて、事故発生時に最短で緊急搬送をすることができる病院を事前に確保しておくことが望まれる。JBC は、医療関係者らを対象として、ボクシング競技における事故や傷病の事例を知ってもらう機会を設けるとともに、安全確保の取組みへの支援を求め、その運営に関与する専門家の増員に努めることが重要である。

また安全管理体制についても、制度設計の見直しは不可避である。JBC ルール上、試合の安全管理の責務を担っているのはプロモーターであるが、規模や経験によって安全水準に格差が生じる可能性がある。ゆえに、JBC がその支援を行う必要があり、具体的には、標準化されたチェックリストや緊急時対応マニュアルの提供、AED や検定済み計量器などの共通備品の貸与、医療機関との連携支援、さらには年次講習による安全管理研修等が考えられる。また、プロモーターによる義務違反や重大な不備への対応も徹底し、プロモーターライセンスの実質化をはかるべきである。

ウ トレーナーの教育を目的とした講習会の実施等

選手の健康管理を日頃からチェックし、スパーリングや減量計画を策定するトレーナーの役割は非常に重要である。従前はクラブ制度を前提としてジムからの推薦でほぼ無条件でライセンスを交付していたが、ジムでの管理の徹底という観点から今後は JBC が積極的に関与すべきと考える。具体的にはトレーナー講習会の開催や資格審査の採用など。

エ 過度な減量の危険性への啓もう、厳格なルール化。特に過度な水抜き減量の禁止

試合前のトレーニング及び減量に関し、より安全性の高い方法を検討し、選手及び試合関係者に普及啓発を行う必要がある。特に、過度の水抜きによる減量については、医学的根拠に基づいて



Japan Boxing Commission

Tokyo Dome 61-3, 1-Chome, Koraku, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan
Tel ; +81-3-3816-5761, Fax ; +81-3-3816-5760
E-mail; yasukochi.tsuyoshi1961@gmail.com

検証を行い、その結果に応じて減量方法の規制を行うとともに、安全かつ実効的な減量方法を提示すべきである。また、減量に失敗した際の対応につき、客観的基準と手続的保障を備えた制度設計が求められる。

オ 搬送経路、搬送手順などの見直し強化

搬送経路、搬送手順については、試合会場ごとに物理的な課題が異なるが、搬送時間を短縮するための具体的な改善策や動線について検討し、関係各所と情報を共有するとともに、職員等への研修で改めて共有することが有用と考える。

カ 将来の健康管理を見据えたデーター収集

現在、奈良県立医科大学臨床研究センターにおいて、JBC と連携して、2005 年以降の過去 20 年間の全試合の記録をデータベース化し、プロボクシングにおける重大有害事象の予測因子を明らかにし、安全基準策定に資する科学的根拠を提供する目的で臨床研究が開始されている。同研究の結果を踏まえて施策を実施するまでには一定の期間を要するが、これらを踏まえたルール改正や安全基準の構築と導入が期待される。

以上

JBC としては、従前の施策が不十分であったとの指摘を重く受け止め、本件委員会から新たに提示された再発防止策も踏まえて制度設計及びルール改正を推進し、このような事故が二度と繰り返されないよう、再発防止に努めていく所存です。